

氏名 \_\_\_\_\_

東京芸術大学大学院美術研究科文化財保存学専攻システム保存学

平成 31 年度修士課程入学試験（英語）

- \* 以下に、問 1 から問 3 まで、3 つの問題がある。指示に従って答えよ。
- \* 答えは解答用紙に、問い番号、項目番号とともに記入せよ。

問 1 下記の文章を読み、以下の問いに答えよ。

著作権の関係により、本文を掲載しておりません。

出典：D. Thickett and L.R. Lee, Selection of Materials for the Storage or Display of Museum Objects,  
British Museum Occasional Paper 111, 2004

- (1) 上記の文章を和訳せよ。

氏名 \_\_\_\_\_

問2 下記の文章を読み、以下の問いに答えよ。

著作権の関係により、本文を掲載していません。

出典：E. May, Stone biodeterioration, *In* Cultural Heritage Micro-Biology fundamental studies in conservation science, Ed. by R. Mitchell and C.J. McNamara ASM Press, Washington, DC, 2010.

- (1) 下線 (1) を和訳せよ。
- (2) Krumbein の見解を 100 字程度で説明せよ。

氏名 \_\_\_\_\_

問3 以下の文を読み、以下の問いに答えよ。

著作権の関係により、本文を掲載しておりません。

出典：Cesareo Saiz-Jimenez, Painted Materials, *In* Cultural Heritage Microbiology: fundamental studies in conservation science, Ed. by R. Mitchell and C.J. McNamara ASM Press, Washington, DC, 2010.

- (1) 下線 (1) の仮説を導くに至ったラスコー洞窟での事例を説明せよ。
- (2) 下線 (2) の Jurado らが言及している内容について 100 字程度で説明せよ。
- (3) 下線 (3) のように推論した理由を 100 字程度で説明せよ。

東京芸術大学大学院美術研究科文化財保存学専攻システム保存学

平成 31 年度修士課程入学試験（基礎）

- \* 問 1 から問 2 まで、各 6 つの問題がある。指示に従って答えよ。
- \* 答えは問い番号、項目番号、選択問題の場合は選択した用語とともに、解答用紙に記入せよ。

問 1 1～6 の各項目につき、(a)～(c)の中から 1 題を選び、100 字程度で説明せよ。

- |                |                 |              |
|----------------|-----------------|--------------|
| 1. (a) 民俗文化財   | (b) 記念物         | (c) 文化的景観    |
| 2. (a) 絶対湿度    | (b) 湿り空気線図      | (c) 調湿剤      |
| 3. (a) 色温度     | (b) 演色性         | (c) 比視感度     |
| 4. (a) X 線回折分析 | (b) 赤外吸収スペクトル分析 | (c) 蛍光 X 線分析 |
| 5. (a) 塩類風化    | (b) 凍結破砕        | (c) 生物風化     |
| 6. (a) 曝涼      | (b) 総合的有害生物管理   | (c) 制限要因     |

問 2 1～6 の各項目につき、(a)～(c)の 3 つの言葉を組み合わせて、文章を作れ。(100 字程度)

- |               |                  |              |
|---------------|------------------|--------------|
| 1. (a) ウルシオール | (b) 酸化分解         | (c) 紫外線      |
| 2. (a) 酢酸臭    | (b) トリアセテートセルロース | (c) マイクロフィルム |
| 3. (a) 日本の近代化 | (b) 建造物          | (c) 文化遺産     |
| 4. (a) 文化財修理  | (b) 可逆性          | (c) 合成樹脂     |
| 5. (a) 大気汚染物質 | (b) 汗かき現象        | (c) 酸性雨      |
| 6. (a) X 線 CT | (b) 非破壊分析        | (c) 内部構造     |

## 東京芸術大学大学院美術研究科文化財保存学専攻システム保存学

平成31年度修士課程入学試験（専門）

- \* 次に問1から問3までの問題がある。指示に従って答えよ。
- \* 答えは問い番号、項目番号、(選択する場合は選択した用語)とともに、解答用紙に記入すること。

問1 1～5の各項目について、(a)～(c)から1題を選び、100字程度で説明せよ。

- |                 |              |           |
|-----------------|--------------|-----------|
| 1. (a)滅菌        | (b)消毒        | (c)除菌     |
| 2. (a)硝化細菌      | (b)硫黄酸化細菌    | (c)酢酸菌    |
| 3. (a)バイオフィルム   | (b)バクテリア     | (c)菌類     |
| 4. (a)落下菌測定     | (b)付着菌測定     | (c)浮遊菌測定  |
| 5. (a)低酸素濃度殺虫処理 | (b)二酸化炭素殺虫処理 | (c)低温殺虫処理 |

問2 文化財表面で生育した微生物を調査する方法に、培養法と非培養法がある。両者の概要と利点を以下の言葉をすべて用いて述べよ。

(a)培地 (b)純粋培養 (c)生理学的性質 (d)遺伝子(DNA) (e)難培養 (f)微生物群集構造

問3 1～5の各項目のうち、3題を選び、3つの言葉を組み合わせて説明せよ。

- |               |                    |              |
|---------------|--------------------|--------------|
| 1. (a)水分活性    | (b)相対湿度            | (c)微生物       |
| 2. (a)ルミノメーター | (b)ATP (アデノシン三リン酸) | (c)カビの簡易迅速検出 |
| 3. (a)石造文化財   | (b)化学的風化作用         | (c)地衣類       |
| 4. (a)藻類の制御   | (b)制限因子            | (c)光         |
| 5. (a)鉄酸化細菌   | (b)パイプ状ベンガラ        | (c)鞘状酸化鉄     |

## 東京芸術大学大学院美術研究科文化財保存学専攻システム保存学

平成 31 年度修士課程入学試験（小論文）

以下の文章は文化財保存修復学会の行動規範です。文化財を対象に自然科学的な手法で調査研究するシステム保存学として、守るべき倫理規定と言えます。

文化財は保存と公開の両立が求められますが、保存と公開は相反する面も持ち合わせています。また文化財の価値づけに調査研究は欠かせないものですが、同様に保存上、好ましくない場合もあり得ます。具体的な文化財の種別を想定し、その保存と公開の、あるいは保存と調査の問題点を指摘し、どのように克服するか、あなたなりのアイデアを、そう考えるに至った論拠を示して、1000 字程度にまとめなさい。

\* 答えは、解答用紙に記入すること。

### 文化財の保存にたずさわる人のための行動規範

（文化財保存修復学会 2008 年 7 月 8 日制定）

前文 文化財は人や自然が作り出した、芸術的、歴史的または学術的に価値の高い有形、無形の遺産である。われわれは人類が共有するかけがえのないこの遺産を、自分たちの世代において活用するだけでなく、将来の世代のために保存しなければならない。文化財保存修復学会はそのため、文化財の保存と活用にかかわる科学・技術の発展と普及を図ることを目的とする。この目的を果たすため文化財保存修復学会会員は、専門家として責任を果たすとともに、社会の一員として社会の安全と安寧、人類の健康と歴史・文化および自然環境に対する責任を有することを自覚して行動する。また教育や普及などを通じて文化財の保存への理解を広め、この分野の発展につくす。

これらの認識の下に、文化財保存修復学会はここに行動規範を制定し、会員が守るべき規範とする。同時にこの行動規範は、広く文化財の保存にたずさわる人が守るべき規範となりうると信ずる。

#### 1. 文化財への敬意

文化財保存修復学会会員は、文化財が人類の貴重な遺産であることを認識し、文化財への敬意を持って調査・研究、公開、保存・修復処置を行う。

#### 2. 文化財の価値の尊重

文化財保存修復学会会員は、調査・研究、公開、保存・修復処置にあたっては、文化財の芸術的、歴史的または学術的価値を損なわないように、適正な方法や材料を検討して選択する。

#### 3. 安全性の確保

文化財保存修復学会会員は、調査・研究、公開、保存・修復処置において用いる方法と材料などに、文化財に対して安全であり、かつ人間の健康や環境にも配慮して適正であるものを選択する。

#### 4. 保存環境の重視

文化財保存修復学会会員は、文化財の長期的保存には保存環境の整備がもっとも重要であることを認識し、文化財にとってより良い保存環境の実現に努める。

#### 5. 自己の研鑽

文化財保存修復学会会員は、学会活動や教育・研修などの機会を通じて自らの専門的知識、技術の維持向上に努めるとともに、その遂行において最善をつくす。

#### 6. 専門家との協力

文化財保存修復学会会員は、文化財の保存が芸術・歴史・文化・自然科学など多くの分野にかかわることを自覚し、調査・研究、公開、保存・修復処置において、積極的に他の専門家の協力を求める。

#### 7. 他者との関係

文化財保存修復学会会員は、他の専門家に対して誠実さと敬意を持って接し、他者の成果を適切に批判すると同時に、他者からの批判には謙虚に耳を傾け、この分野の発展に努める。

#### 8. 記録の作成・保存・公表

文化財保存修復学会会員は、調査・研究、保存・修復処置にあたっては、信頼性を確保しつつ適正な記録や報告書を作成し、適切に保存・管理するとともに、公表につとめる。

#### 9. 法令の遵守

文化財保存修復学会会員は、調査・研究、公開、保存・修復処置にあたっては、関係する法令や関係規則を遵守する。また他者の知的成果、知的財産権を尊重し、これを侵害しない。

#### 10. 行動規範の遵守

文化財保存修復学会会員は、この行動規範を遵守し、他の会員にもそれをうながす。

氏名 \_\_\_\_\_

## 東京芸術大学大学院美術研究科文化財保存学専攻システム保存学

平成 31 年度修士課程入学試験（実技）

（1）机上にある文化財害虫カードを参照しながら文化財害虫標本の生物種名を標準和名で全て答えよ。また、可搬型実体顕微鏡を正しく用いて、文化財害虫標本の記号 R についてのみ形態的特徴をスケッチすること。